

研究活動報告

第19回アジア・メガシティ大学間セミナー

韓国・ソウルの漢陽大学にて、2014年8月27日(水)～30日(土)の期間、アジア・メガシティ大学間セミナーが開催された。この会議は、毎年アジア(含:極東ロシア)におけるメガシティの建築・都市計画関係大学が持ち回りで開催しているもので、第19回目の今回は、日中韓、ロシア、フィリピン、アメリカなどから114名の研究者・学生が参加した。セッションは、スマート都市計画、都市再生、空間分析、持続可能な開発、歴史都市遺産保全、コミュニティー開発、災害予防とリスク・マネージメント、環境とエコシステム、運輸システム、建築デザイン、都市インフラ管理、ランドスケープといったテーマで行われた。筆者(国際関係部長林玲子)は「人口高齢化時代のメガシティ形成—日中韓の移動性向比較」というタイトルで発表を行った。日中韓比較においても、広く世界の国々と比較しても、韓国人はよく動くことがわかってきているが、韓国の不動産専門家より、韓国独自のチョンセ(伝貰)という賃貸方式が影響しているのではないか、というコメントがあった。また今回はロシア(ハバロフスク)からの参加も多く、中露国境地域の近年の開発や歴史的な国境付近の都市形成過程など、興味深い発表も多かった。(林 玲子 記)

少子高齢化に対する政策対応の韓日比較セミナーへの参加

韓国保健社会研究院(KIHASA)が主催する「少子高齢化に対する政策対応の韓日比較セミナー」が2014年9月5日に韓国のソウル市庁舎にほど近い大韓商工会議所で開催された。同セミナーではKIHASA 院長최병호氏(Tchoe, Byongho)、韓国保健福祉部人口政策室長이태한氏(Lee, Taehan)の挨拶に続き、KIHASA の이삼식氏(Lee, Samsik)及び정경희氏(Chung, Kyunghee)がそれぞれ少子化対策、高齢化対策に関する政策の韓日比較に関する研究報告を行い、研究報告に対するパネルディスカッションが行われた。報告者は、이삼식의研究報告に対する討論者として出席し、研究報告に対するコメントの他、最近の日本における人口関連政策の新しい展開として地域人口の減少対策に関連する動向を紹介した。また、滞在中にはKIHASA 人口政策部の研究員と日韓の人口高齢化の要因と展望に関し社会・政治・経済・文化的変動について専門的な意見交換を行う機会が豊富にあり、有意義な休暇を過ごすことができた。(菅 桂太 記)

第24回日本家族社会学会大会

第24回日本家族社会学会大会が2014年9月6日～7日に東京女子大学において開催された。2日間にわたり、9つの自由報告セッション:1. 女性の就業, 2. 教育・親子関係, 3. 育児支援, 4. 家族に関する規範, 5. グローバル化と家族, 6. 「親」であること, 7. 男性の家事・育児, 8. 結婚・離婚, 9. 中期親子関係・介護, 5つのテーマセッション:1. 日本国内における結婚と家族の地域研究, 2. <民主的>家族の再検討, 3. 子どものいない有配偶・無配偶男女の「子どもをもつこと」について, 4. ライフイベントと家族—NFRJ-08 Panel による分析, 5. 親子関係と子育てをめぐる新たな秩序と

実践、2つの国際セッション：1. What Are Important Issues in Stepfamily Research?: Perspectives on Social and Cultural Contexts, 2. Attitudes of Female Students toward Supporting Elderly Parents in Major Cities in Asia, そして最終日には公開シンポジウム「少子高齢化と日本型福祉レジーム」が開催された。

テーマセッション1の「日本国内における結婚と家族の地域研究」においては、「九州地域における人口性比と人口移動」（工藤豪 埼玉学園大学）、「若年女性の人口移動と家族形成—官庁統計とJGSS-2012データのリンケージによる分析」（佐々木尚之 大阪商業大学）と題した国内人口移動に関する報告もあった。地域の人口減少が最近、大きな政策的課題として取り上げられていることから、家族社会学会においても若い女性の移動動向や、プッシュ・プル要因といったテーマが注目を集めているようである。

Step Family に関する国際セッションではアメリカから研究者の他に再婚した家族1人1人の心理的ケアを担う臨床医も報告を行い、アメリカのこの分野における関心の高さ、研究と実践のリンケージの緊密さ、子どもの心理面の健康を最も優先する姿勢を示しているように感じられた。

（千年よしみ 記）

第10回社会保障国際論壇（中国・北京）

第10回社会保障国際論壇（The 10th International Conference in Social Security）が、中国人民大学が開催校となって、9月13日から14日にかけて中国・北京市で開催された。テーマは「現在の社会保障のチャンスと挑戦」であった。この論壇（フォーラム）は、2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会、韓国中央大学などの協力により始まり、以後、日本、中国、韓国の研究者が毎年持ち回りでを行っている。今回は基調講演のほか、テーマ別セッションとして「医療保障」、「高齢者年金」、「介護」、「社会福祉」、「公的扶助」、「国際高齢者年金」、「若手セッション」などで研究発表や議論が行われた。これらのセッションでは、医療、年金、介護といった人口高齢化に関する研究報告の他、公的扶助（貧困対策）、自然災害への対応など多岐にわたるテーマで報告が行われた。さらに、欧米からの参加者も意識した「国際高齢者年金」セッションも設置された。参加者は約300名であり、日本、中国、韓国のほか、欧米諸国、国際機関（ILO、世界銀行）からの参加もあった。当研究所からは3名が参加し、以下の報告を行った。

林玲子（国際関係部長）「東アジアの健康寿命：日中韓の比較分析」（高齢者年金分科会）

金子能宏（政策研究連携担当参与）“Life Security Function of the Public Pension Insurance and Supplementary Role of the Corporate Pension Scheme - in the case of Japan”（国際高齢者年金分科会）

小島克久（国際関係部第二室長）「韓国・台湾の介護制度構築の現状と課題—日本の経験との比較—」（介護に関する特別分科会）

なお、次回の「社会保障国際論壇」は2015年9月に韓国・ソウルで開催される予定である。

（小島克久 記）